



第346号

発行
浄土真宗
心光寺
奥原曇龍
倉敷市早高426
☎(086)420-1311



晩秋に考える

秋も一段と深まりました。お寺の周りの水田も稲穂が頭を垂れていました。今は殆どコンバインで刈り取られ、晩秋の寂しさが漂っています。皆様、朝夕は冷え込んでいますがお元気でしょいか。



カット：本多絢子

今年地震や台風・大雨による災害が日本各地で起こり、暗いニュースが続くなかで、10月1日、スウェーデンのカロリンスカ医科大学はノーベル医学生理学賞を京都大学の本庶佑特別教授(76)と米テキサス大学のジェームズ・アリソン教授(70)に贈ると発表され、明るい報道に喜んでいきます。2人は、体内で異物を攻撃する免疫反応にブレーキをかけるタンパク質を突き止め、がんの免疫治療薬開発に革命をもたらしました。がん治療は従来、外科手術、放射線、抗がん剤が中心だったが、「免疫でがんを治す」という第4の道を開いたのです。体内では通常は免疫が働き、がん細胞を異物とみなし排除します。しかし、免疫細胞には自身の働きを抑えるブレーキ役の分子があるため、がん細胞はこれを使うと攻撃を受けずに済みがんは進行してしまいます。2人はそれぞれブレーキ役の分子の役割を発見し、この働きを抑えてがんへの攻撃を続けさせる新しい治療薬を提案しました。本庶佑さんの成果は、「オプジーボ」などの治療薬となつていきます。

*心の悩み・信仰の相談は月曜日から木曜日の午前中に気楽にお電話下さい。

また10月5日、ノルウェーのノーベル委員会はノーベル平和賞を、アフリカ中部コンゴ民主共和国の婦人科医デニ・ムクウェゲ氏(63)と、過激派組織による性暴力被害者で、被害者の救済を訴えるイラクの少数派ヤジディ教徒のナディア・ムラド・バセ・タハさん(25)に授与すると発表しました。

ムクウェゲ氏は内戦状態が続くコンゴ東部で武装勢力の戦闘員らによる性的暴行の被害を受けた数万人の女性の心と身体の治療に当たってきました。レイプが地域社会を破戒する『兵器』として使われているのは、戦争犯罪だと国際社会に強く訴え続けています。

ムラドさんは、2014年8月、過激派組織「イスラム国」(IS)に故郷の村が襲われ、6人の兄弟と母親を殺害されるとともに、拉致され、性奴隷として人身売買されます。3ヶ月後に脱出するまで、繰り返しレイプや暴行を受けました。いまは国際親善大使として、ISによる性暴力被害の実態を訴え、紛争下での女性の基本的権利と安全が守られるよう尽力しています。

ノーベル平和賞という賞が生まれるのは、人が人として生きる基本的人権を無視して、紛争や争いをしてる国や人が存在しているからで、エゴむき出しの人の世界はとても悲しいことです。

沢庵和尚の『玲瓏集』に「栗や柿の実に喩えて話します。栗や柿に痛みも哀しみもないというのは人から見た考えです。栗や柿にも痛みや哀しみが自然に備わっています。草木が痛んでいる風情は、人の痛み憂えるさまと変わりありません。水を注いでやると活き活きとして喜びます。切れば倒れころんで葉がしおれてしまうさまは、人が死んでゆくのと変わりません。また草や木も人の悲しみと痛みを知りません」とありますが、先進国には先進国の悩み、発展途上国には発展途上国の悩みがあり、痛みがあるのを互いに理解していません。

男性には男性の、女性には女性の、高齢者には高齢者の、若者には若者の悲しみと痛みがあるのを分かち合おうよ。合掌(奥原曇龍)

『平和な世目指して闘い殺し合う エゴむき出しは獣と同じ』 どんりゆう



カット：奥原 綾

ともしび説法

日時・十一月三日「土曜日」 午前十時から午後四時頃まで。
ハンドベル演奏・フラダンス・民舞。報恩講法要。講演。
場所・倉敷市早高426 新本堂 電話086-420-1311

ともしびを読みたい方、お寺についてもっと知りたい方 [心光寺](#) [倉敷](#) [検索](#)



お釈迦様ものがたり 25

お釈迦様は、マガダ国王舎城で有名な禪定の師である二人と別れ、苦行の地を探し求めてマガダ国を転々遊歴し、ウルヴェーラのセーナー村に入りました。そこは尼連禪河のほとりて静寂な林森があり、眺めが良く、川の水は清く澄み、近くに豊かな村があつて托鉢もでき、修行には最適な大地でした。

かくていよいよ苦行の生活に入られたが、苦行は四種に大別されます。①心を制御するもの、②呼吸を止めるもの、③断食によるもの、④食を減ずるもの、です。

①心を制御する苦行とは、端座して上下の歯を合わせ、舌を上顎につけ、その姿勢のまま、心をもって心を制御、統制することである。この場合、呼吸は普通であり、短時間の間はなんともなくても、それが続いて熱心になると、しだいに苦しくなり、両脇から汗が流れ、頭を押さえられ、肩をつかまれていくような苦痛を感じます。

②呼吸を止める苦行とは、出る息、入る息の呼吸を止めて、次第に苦しいものへと、五段階に進んで行くことである。第一には呼吸が口や鼻から通るのを止めるのであるが、息が入り出りをふさがれると、両耳から出入りするようになるらしい。耳から息が入り出るときは耳鳴りがして激しい苦痛がします。第二には、耳からの呼吸も遮断すると、頭が打ち砕かれるような苦痛を覚えるそうです。

③絶食による苦行とは、最初は一昼夜だけ絶食し、次第に二昼夜、三昼夜、一週間、十日、半月、一ヶ月と増やします。

④減食による苦行とは、断食と関係したものであつて、豆粒や米粒などを、一日に食べる量を次第に減らし、一日に一粒、一週間に一粒というように断食と同じ状態を続けるのです。そのため、お釈迦様の全身は肉がなくなり、皮はしわみ、眼はくぼみ、骨と皮だけになったとあります。合掌 (奥原曇龍)



総代さんたちの仏具磨き(9月30日)

ともしび法話

お寺の周りに輝いていた水田の稲穂が刈り取られ、晩秋の寂しさを感じる今日この頃ですが、皆様お元気でしょうか。お寺では十一月三日に報恩講法要の儀式や催し物の準備で、総代・世話人さんたちに助けて頂き、感謝しています。皆様方も気軽に心光寺の法要にお参り下さい。心光寺坊守(ぼうもり) 奥原 博子

毎月の「ともしび」の中で、私の心の中に強く残った言葉は「人間は自分の都合の良いように生きられないし、自分の思うように都合良く死ねない」です。いずれ… 倉敷市黒崎 早瀬小夜子

十一月三日文化の日に心光寺の秋の法要が開催されます。午前中はハンドベル演奏やフラダンス・民舞ひばり会の踊りが催され、午後は報恩講法要の儀式と仏教講演があります。皆様と一緒に参詣しましょう。倉敷市藤戸 福原 浩子

秋深し親鸞様を偲びつつ 寺に参ればこころ安らぐ 倉敷市中島 山田 孝治

枯れ葉舞う小道の向こうに寺の門 夕日輝くいのちのともしび 田辺多恵子

ともしび説法

日時・十一月 三日「土曜日」 午前十時から午後四時頃まで。
場所・倉敷市早高四二六 心光寺(しんこうじ) 本堂にて
電話・(086)420-1311 駐車場有り
(宗派をとわず、まじめに人生を考えているあなたに参加していただきたいのです。)

○ともしび説法・お寺の行事予定

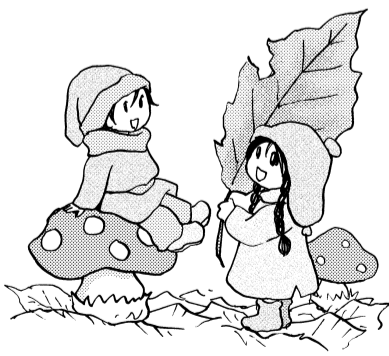
- 十二月 六日(木)・午後一時から午後四時・早高の本堂。
- 一月 一日(火)・午後一時から午後四時・早高の本堂。
- 二月 六日(水)・午後一時から午後四時・早高の本堂。

☆『ともしび』を平成21〜23年、平成24〜26年、平成27〜29年と三年ごとにまとめて本としました。毎月1回のお寺の新聞が本となって、過去の忘れていたニュースを思い出し、人生をふり返ることが出来ます。まとめた本が欲しい方は実費でお分け致します。



いづるの詩

晩秋の夕焼けは寂しく輝く
ささやかな暮らしの中で
死をおそれ生きることだけが
すべてだと思っていた
生命のささやきに耳を澄ませば
損得を超えて生きていく
枯葉の舞いもなぜか美しい



カット:吉岡美枝



新本堂住所 〒710-0022 倉敷市早高426
布教所 〒710-0043 倉敷市羽島375-65

◎ともしび制作費に御寄付ありがとうございました。

倉敷市 高橋様 小谷様 3千円
岡山市 小川常夫様 1万円

浄土真宗の宗祖は親鸞聖人(しんらんしようにん)です。お葬式の時にあわてて葬儀屋さんを紹介してもらいより、自分でお寺は決めよう。

〒710-0022 倉敷市早高426
浄土真宗(じょうどしんしゅう)心光寺
TEL(086)420-1311 FAX 420-1322
携帯電話 (090)-2297-2504

★『ともしび』の毎月発行も、お陰様で「346号」となりました。心光寺は、誰でも気軽に来られる「心の雨宿りのお寺」を目標に頑張っています。11月3日の法要の日には、倉敷駅西ビル横の駐車場に9時40分、茶屋町駅西口に10時10分に、お寺より自動車でお迎えに行きます。車の送迎が必要な方はお寺まで、ご連絡下さい。合掌 心光寺 総代長 三村健